

# 淮安経済技術開発区の紹介（江蘇省淮安市）

岡山県上海事務所 専任スタッフ 馬小琳

## 概況

淮安（わいあん）市は江蘇省の中西部に位置し、故周恩来元首相の出身地である。周恩来元首相は淮安に生まれ、幼少期の12年間を過ごした。淮安は歴史的に有名な都市であり、明清時代には杭州、蘇州、揚州とともに、京杭大運河（北京－杭州間運河）沿線の「四大都市」と呼ばれた。江蘇省北部の交通要所であり、重要な対外開放港でもある。

淮安経済技術開発区は淮安市の東南部に位置し、1992年に設置、1993年10月に江蘇省政府から承認され、省クラスの開発区へ、また2010年11月に国家国務院によって承認され、国家クラスの開発区となった。現在の人口は30万人、行政区域は183km<sup>2</sup>を占め、区内には中国淮安輸出加工区、教育産業パーク、塩アルカリテクノロジー産業パークなどが設置されている。

## 交通

淮安市は高速道路と鉄道を中心に、水上交通・道路交通・航空路線も発達し、国家レベルの交通要所になっている。陸路は、江蘇省から浙江省までを結ぶ新長鉄道が淮安市を貫き、水路は、京杭大運河など多くの航路が通り、京杭大運河沿いの港の貨物取扱量は1,300万tに達している。空路は、淮安漣水空港に北京、上海、アモイ、広州、台湾、深センなどへの航空路線がある。交通網の発達は開発区を上海経済

圏に組み込んだだけでなく、中国国内の大都市との時間的・空間的距離も短縮した。

## 主要産業

淮安市は、塩アルカリテクノロジー産業が有名である。淮安市は岩塩の産地で、ファインケミカル及び新化学工業材料産業チェーンに重点を置く大規模なソーダ灰、塩素アルカリ深加工基地及び新化学工業材料プロジェクトの集中エリアを構築している。目下、国家クラスの塩化学製品品質検査センターが建設され、20の1億元以上のプロジェクト誘致に成功した。

特殊鉄鋼産業も同市で30年の歴史を持っている。江蘇砂鋼集団淮鋼特殊鉄鋼有限公司、江蘇天淮鋼管有限公司、江蘇開來鋼管有限公司などの重点企業があり、300万tの特殊鉄鋼、300万tのシームレス鋼管、150万tの鋼管の生産能力がある。そのうち、淮鋼鉄鋼有限公司の鉄道用サスペンションの生産規模は全国で一番である。鉄鋼産業の総売上高は1千億元を超え、江蘇省の中でも特色がある先進的な鉄鋼産業基地である。

## 誘致産業

淮安経済技術開発区では、以下の産業を誘致している。

（自動車部品）

自動車エンジン、変速系統、自動車電子、ゴム製品など

### (情報技術)

コンピューター及び関連機器と電子部品産業。半導体、マイクロ電子技術、光エレクトロニクス、ソフトウェア、ネットワーキング、車載電子機器産業と通信機器など。

### (塩化学工業)

塩を原料とする各塩化学工業、硫酸ナトリウムなどの製品及びその他のファインケミカル製品。

### (精密機械)

自動車部品を主とする機械産業、メカトロニクス、省エネ環境保護設備、大規模な金型モールド及びその産業の拡張。

### (バイオテクノロジー)

ライフサイエンス、バイオ医薬品など。

### (消費財)

軽工業、繊維製品、食品など。

### (サービス貿易)

現代物流、金融、保険、旅行サービス、会計監査、総合取引市場、大型ショッピングセンター、ホテル、娯楽施設、高級住宅など。

### (ハイテク創業センター)

ハイテク創業センターとは、ハイテク企業の育成、科学技術成果の発展と変容などの機能を持つ。

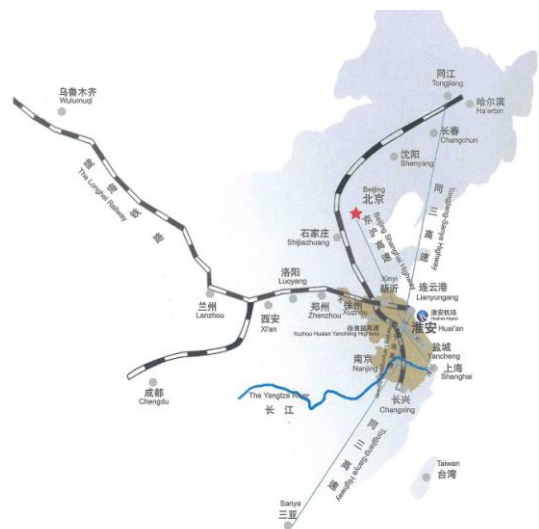
## 人材と教育

淮安市の人口は540万人余りで、中心部から100 km圏内の人口は3,000万人にも達する。教育機関は、淮陰師範学院、淮陰工学院、淮安情報職業技術学院、食品工業学院、淮安エンジニア学院、南京林業大学南方学院などの大学が8校、経済、エレクトロニクス、化学、建築などの専門学校が26校ある。総学生数は11万人で、毎年約4万人が卒業しており、ハイレベルな労働力が豊富である。

## 進出している外資系企業

近年、淮安市は「開放型」発展戦略を実施し、たくさんの外国資源と資本を誘致してきた。最新の統計データでは、2012年の外国企業からの投資は21億2千万米ドル、前年同期に比べ30.9%増加、増加幅は江蘇省で首位となった。同市の外国企業は2,000社、そのうち、伊藤忠商事株式会社、ドイツのメトログループ、フランスのエア・リキードグループ、台湾の鴻海グループなど、世界ベスト500企業も入居している。また、近年、同市は上海の産業との連携を進めており、外国企業が上海で設立した地域本部が淮安市で再投資している。現在、200社あまりの上海企業が同市に投資した。

上海、蘇州を始めとした揚子江デルタ地域では、地価、工場レンタル費及び人件費が上昇し、外国企業が入居するコストが高くなっている。そのため、外国企業の内陸部への移転が2、3年前から見られるようになった。



淮安地図

(2013年8月)